

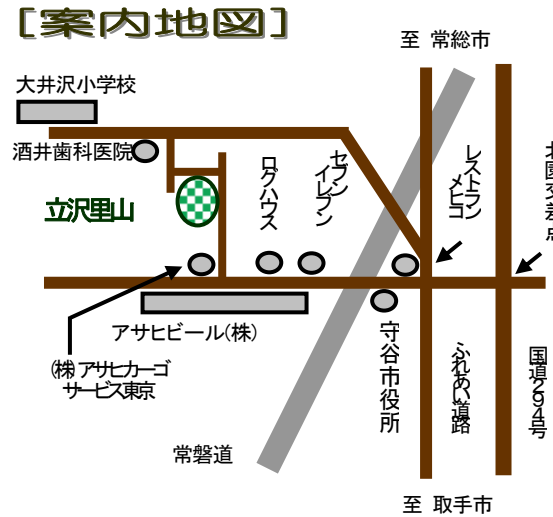
立沢里山

平成22年8月7日 第20号

立山新聞

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
 あなたも一緒に楽しみましょう！



「立沢里山新聞」の記事をお願いします
denen21@hb.tpl.jp 清野

～目次～

- 1 田んぼの学校開校：田植実施
- 2 田んぼの様子、鴨のツガイ
- 3 ザリガニ駆除と移植植物：大賀ハス開花
- 4 炎天下の定例作業：親子ボランティア参加
- 5 「知るを楽しむ里山協働事業」発表会

1 田んぼの学校：田植を実施



今年も恒例の「田んぼの学校」が始まり、5月19日（水）は田植えです。雨雲が近くまで来ているようですが、朝から日差しがあります。朝から日差しがあります。朝から日差しがあります。

「立沢里山の会」のメンバーが準備作業をしていると早くも9時過ぎには第一陣が徒歩で到着です。今年も御所が丘、松前台、大井沢の3小学校から5年生206名の参加となりましたが、最近ではまた生徒数が少しずつ増えてきているようです。

全員が早めに勢ぞろいし、天気も心配だったので早速9時半から開会挨拶と海老原会長の田植えの説明です。

その後、各学校に分かれて作業開始ですが、やはり最初は皆おそるおそるでなかなか田んぼに入ろうとしません。足を抜くのに苦労しているようなので、踵から上げてごらんを教えると、本当だと納得しながら覚悟を決めて入ってきます。最初は歩くだけでも大変で田植えどころではない子供もいます。むしろ女の子のほうが冷静に観察するのか、田んぼの中は温かいんだね、そこで「泥は美容にも良いんだよ、お母さんに聞いてごらん」と教えるとやはり女の子で、本当に？と大喜びで親しみを持った様子でした。

男の子は大声で騒いで、こちらの支持が聞こえないほど。中には尻もちどころか背中から転んで全身泥だらけになった子供も何人かいました。



最初は泥を嫌がっていた子供も覚悟を決めると楽しくなって、そろそろ交代の時間といってももう少しやりたいと頑張ります。

今年は全面的にシロカキをしない「不耕起栽培（ふゆみず田んぼ）」にしたために、切り株が多くデコボコ（不陸）で植えにくかったかもしれません。普通シロカキをしないと長靴で歩けるくらいに田んぼが固くなるといわれますが、立沢は昔からの典型的な谷津田の超湿地田のために子供にとっては膝近くまでのぬかるみです。

それでも大勢なので、一時間ほどですべての田んぼに植え付けが完了し、怪我もなくなによりでした。最後に子供たちから御礼の挨拶があって11時過ぎには終了しました。

せっかくの機会なので今年全員で記念撮影をすることにしました。泥だらけですが皆元気に笑顔が一杯の写真ができました。（上の写真）たまたまスクールバスが3台も通りかかったので皆で元気に手を振って挨拶したところでした。

今年も3社の新聞取材があり、父兄や市役所も視察に来ていました。例年子供の小さな足で歩くと畦が壊れてその後の修復作業が大変でした。今回、7回目の田植えにして始めて畦道が原形を留めてくれました。昨年の秋に思い切って盛り土補強をした成果で「里山の会」としては記念すべき成果です。

帰りの挨拶の際に、「メダカが沢山いるので採りに来てほしいよ」と言うのと、「え～本当に採ってもいいの？絶対に来る！」と楽しみにしていました。

子供たちが帰った後に一休みし、引き続いて一般の田んぼの田植えも行いました。こちらは面積も少なく皆の手順も良いのですぐに終わりました。直後に時計で計ったようにパラパラと雨が降ってきました。おそらく、子供たちがちょうど学校に着いた頃の時間で、ピッタリのタイミングだったと思います。

夕方、北守谷団地内のいつもの店で「なおりい」を行い、皆しっかりと飲んで作業の慰労と今年の豊作を祈願しました。汗をかいた後の実にさわやかな酒でした。



朝日新聞

まちかど

▷206人が田植え

守谷市の大井沢、松前台、御所ヶ丘の3小学校の5年生計206人が19日、コシヒカリの苗を田植えした＝写真。10年前まで、ごみの不法投棄などで荒れ放題だった2畝の休耕田を市民ボランティア「立沢里山の会」(鈴木栄会長)が整え、江戸時代の技法「上総掘り」で井戸を確保して2千平方㍍の水田を復元させた。



婦ですので、驚かさないように見守りましょう。

2 田んぼの様子、鴨のつがい

子供の帰った田んぼは静まり返り、昨日の田植えの喧騒がウソのようです。雉の家族が時折ケーンと呼び合う声が響いてきます。

翌日みてみると、苗が浮いてトラ植えになったり、一株に10本以上植えたために超過密ありと様々でしたが、数日後には皆たくましく成長し始めました。

時々、モグラが畦に穴を開けて田んぼが干上がっていることもあります。その都度修復し問題はありません。

6月になると草取りをしなくてはなりません。今年は雑草が比較的少ないのでよく観察してみると、鴨のツガイが住み着いて一生懸命に除草作業をして

ていました。合鴨農法が各地で盛んですが飼わなくても鴨のボランティアは大歓迎で感謝感謝です。仲良しの夫婦



仲良く除草する鴨のつがい

3 池のザリガニ駆除と移植植物：大賀ハスの開花!!!

池に移植した植物は、新芽は出すのですが、すぐにザリガニに切られてかなり危機的な状態でした。昨年も夏季に行いましたが、池の浚渫、水質改善をかねて6月12日(土)の午後にザリガニ駆除作業を実施しました。



落水するとかなりのヘドロが堆積しており、まず浚渫作業を行いました。ザリガニも結構いましたが、昨年に比べると子供が多いようで、捕獲して下流に放流しました。また部分的に波板で囲い保護してみました。

作業後に水位を戻すとメダカの大群がすぐに出現し、元気に泳ぎだします。その後、ザリガニが減った影響か、スイレンやコウホネ、アサザ、ナガエミクリなどは新芽がすくすくと伸びて元気になってきました。

もっとも元気なのは「大賀ハス」で、株数も増えて一大群落を形成しています。大賀ハスは古代ハスとも言われ、須賀事務局長が種から育て昨年池に移植したものです。

そして、8月4日(水)の早朝、最初の一輪花が朝もやの中に確認できました。さらに8月7日(土)にはスイレンの花も開花しました。

まだ株が小さいので花もそれほど大きくはありませんが、道路からもはっきりと見ることができます。他にも数個の蕾がありますので、これからの開花が楽しみです。



池のスイレン



初めて開花した大賀ハス

4 炎天下の定例作業：夏休み親子ボランティア参加

7月24日(土)連日猛暑が続いている中、定例の草取り作業です。

今回の定例会にはボランティアの親子の参加があり、希少種の保護活動が勉強になると考えて、タコノアシなど池周辺の選抜除草を依頼しました。最初は名前の由来や希少種の説明を行い、興味を持ってもらいました。ただ、「タコノアシ」と酷似した「ミソソバ」との区別が難しかったかもしれません。親子で頑張っていたか一時間ほどでタコノアシ、アギナシの群落周辺の整理を行い、スッキリしました。小川の「タコノアシ」も子供たちが侵入して踏みつけられていましたが併せて紐をはって囲い保護しました。

最後に参加証明書と御礼に今春焼いた竹炭を手渡しました。

今回は学校の先生たちも刈払い機持参で参加してくれて、田んぼ周辺や土手道の草刈を行いました。その他、崩壊したデッキ補修、ゴミ拾いなどを行いましたが、熱中症の心配があるほどの猛暑だったので早めに終了としました。



タコノアシ周辺の除草

5 「知るを楽しむ里山協働事業」発表会

昨年に引き続き第2回目の「市民提案型協働事業発表会」が会田市長も参加し、7月25日(日)、市民交流プラザにおいて実施されました。

昨年も里山の関係で提案してほしいとの打診はあったのですが、十分な検討時間がなく見送ってしまいました。今回は守谷里山ネットワークとして昨年来検討を進めてきた「里山マップ作成」を中心とした提案を行うこととしました。

「知るを楽しむ里山協働事業」と題して、守谷の里山を里山マップなどにより「見て」知る、セミナー等により「学んで」知る、フィールド研修等により「体験して」知るという3本柱からプレゼンテーションを行いました。

市長からは、里山は守谷にとって大変重要な課題であること、斜面林買い取り計画の話も出てきて、地域とボランティアの連携などについて質疑が行われました。学識経験者の講評でも高い評価をいただきました。具体的には、今後市と検討をしながら進めていくことになると思いますので、里山の会としても注目していきましょう。

最後に、昨年提案された団体からもそれぞれ進行状況などについて報告が行われました。今後の展開が期待されます。

今年は10月に名古屋で生物多様性締約国会議COP10が開催される予定で、主催者である日本国のテーマは「SA TOYAMA イニシャチブ」として日本の里山の経験を生物多様性の先進事例としてアピールすることとなり、注目されています。



親子ボランティアに参加書



会田市長



プレゼンテーション